

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2021 年 3 月号掲載



日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬心伝心 —奮闘記part II—

佐々紫苑

Shion Sassa



先日、東京競馬場で誘導馬として活躍していたG I馬のサクセスブロッケン号が誘導を引退しました。競馬場で見る最後の姿は、まだまだこれからだと言わんばかりの堂々としたたずまいでした。競馬でも馬術でも、現役を退くというのは大きな馬生の節目です。

私のオランダ滞在時、前回のお話にも登場してくれたゲルコ・シュローダー選手が、オリンピックで銀メダルを獲得した際に騎乗していたグロックス・ロンドン号の引退式がありました。大きな旗を持った人々が花道を作り、風にたなびく旗の間を物おじもせずゆったりと走るロンドンは、威厳があり、名馬の真の姿を見た気がしました。会場内ではロンドンの偉業をまとめたビデオが流れ、全員がスタンディングオベーション、拍手の嵐で最後の時を過ごしました。もちろん、全ての馬が引退式でもらえるわけではありませんが、愛馬一頭一頭に対する感謝と寂しい気持ちはどの選手も同じです。

ちなみに私の愛馬QUANDOとWINNIDOUには、彼らの今までの頑張りに心からの敬意とありがとうの気持ちを込めて、山盛りのニンジン&リンゴパーティーを開催しました。今はオランダから毎週のように送られてくる、放牧場を走り回るのびのびとした2頭のビデオを楽しみにしています。



馬着には「Thank you London」の文字がありました (本人提供)

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

新型コロナウイルスによるロックダウンが徐々に緩和されている中、ヨーロッパでは「馬ヘルペスウイルス1型」(EHV-1)という馬の伝染病が流行しています。これまでも冬場になると、ちらほら発症例を聞くことはありましたが、今回のような流行は過去何十年で最も深刻だといわれています。

感染拡大を受けて、4月11日までに予定されていたヨーロッパ主要10カ国の国際大会はすべてキャンセルになり、私のいるドイツの国内大会も3月28日までキャンセルが決まっています。(3月22日現在)

今回の流行は2月から開催されていたスペインの国際大会で広まったものといわれていて、現地では100頭以上の馬が感染し、これまでに計12頭の馬が亡くなったそうです。馬ヘルペスは、発熱や呼吸器感染症や流産などを引き起こすウイルスで、馬同士の接触や飛沫での感染、また人の衣服や、馬の道具などを介しての感染も起こりうるそうです。私の愛馬は半年に1度、インフルエンザと馬ヘルペスのワクチンを接種していますが、馬ヘルペスのワクチン接種は「推奨」されているだけなので、接種していない馬もヨーロッパには多くいるとのこと。人馬ともに、平穏な日々が訪れるのはもう少し先になりそうです…。



人馬ともに健康管理を徹底して、トレーニングに励んでいます！ (本人提供)